

N F A サッカー活動の再開に向けたガイドライン

競技会・イベント運営ガイドライン

奈良県のサッカーファミリーを新型コロナウイルスの感染から守る！

そのために、いま皆さんに遵守頂きたい行動指針を示します！

一般社団法人 奈良県サッカー協会



2020年6月15日 初版

2020年7月31日 改訂

I. 新型コロナウイルスの影響下における競技会・試合運営の手引き

本手引きは、政府から示された新型コロナウイルス感染症対策基本的対処方針、新型コロナウイルス感染症の状況分析・提言を踏まえ、サッカー競技会開催にあたっての基準や感染防止のための留意点を、日本スポーツ協会の指針を参考にサッカー競技会・試合の特性を踏まえてまとめたものです。

新型コロナウイルスの感染が認められる状況下において競技会・試合を開催する際には、以下の条件が揃うことがポイントとなります。

- ① 競技会が開催される自治体の方針に従う。
- ② 参加チームが所在している都道府県が開催地を含めた都道府県間の移動を認めている。
- ③ 参加するチームの選手全員が試合に向けたコンディションが整っている。
- ④ 競技会に関わる関係者、参加チームの選手・スタッフが日常において「新しい生活様式」に従って感染対策を実践している。
- ⑤ 競技会会場において各種別委員会・連盟が十分な感染防止対策を実行できる。

以下、競技会開催において留意すべき事項、準備すべきポイントについて記載してありますので、各種別委員会・連盟並びに参加チームは参考にした上で競技会・試合運営／チーム運営を行ってください。※フットサルについては、後日、発信予定のアリーナスポーツ向けガイドラインを参照のこと

I. 地域の状況に応じた競技会・試合開催の判断基準

サッカー活動再開に向けたJFAガイドラインを参照のこと

※最終的には、**NFA感染対策責任者**が判断・決定します。

NFA感染対策委員会

感染対策責任者 山口 浩(専務理事)

感染対策委員 倉内 清共(常務理事)

吉村 拓也(技術委員長)

北野 和好(事務局長)

II. サッカー競技会開催時の感染防止策について

各種別委員会・連盟は以下の内容を踏まえつつチェックリストを作成し、感染防止策に取り組んでください。

※添付のチェックリストをベースに、各種別委員会・連盟においてカスタマイズして頂いても構いませんが、条件を緩和する場合は、奈良県FAの感染対策責任者の承認が必要です。

1. 事前の対応

各種別委員会・連盟は、会場において感染防止対策に向けた準備を行うとともに、参加チームに対し、感染防止のために選手・スタッフが遵守すべき事項を明確にして事前に連絡し協力を求めることが重要です。また、各施設の方針・ルール等も事前に確認をするようにお願いします。

各種別委員会・連盟及び参加チームはそれぞれ感染対策責任者を設置し、事前、試合日、事後に相互に連絡を取り合える環境を構築してください。

当日の参加者・来場者の把握が出来るような管理体制を構築して下さい。

※必要に応じて、実施要項・参加申込書等にて遵守事項の明確化と承諾を得る事。

(1) 参加者への連絡事項

各種別委員会・連盟が参加予定チームの選手・スタッフ、マッチオフィシャル、メディアに対して事前に求める感染拡大防止のための措置として、以下の項目が挙げられます。

各種別委員会・連盟の感染対策責任者は参加予定チームの感染対策責任者、事前申請したメディアに対し、以下の項目を競技会開催前に伝えてください。また運営に関わる役員、会場スタッフ、ボランティア、その他関係者全員に対しても同様に事前伝達してください。

※感染対策責任者は、各参加者・関係者に対して健康チェックシートを競技会当日の2週間前から記録の上、競技会・イベント当日に持参する必要があること。

各種別委員会・連盟の感染対策責任者に提示する事を求められることを事前に周知する。また、感染拡大状況の変化によって、大会イベントを中止・延期とする可能性があることを理解して頂くよう周知ください。

① 以下の事項に該当する場合は自主的に参加を見合わせる事

- ・ 体調が良くない場合（例：発熱・咳・咽頭痛などの症状がある場合）
- ・ 同居家族や身近な人に感染が疑われる方がいる
- ・ 過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合

② 参加者全員がマスクを着用する

③ 参加者全員の健康チェックシートを作成し提出してもらう※

④ 各種別委員会・連盟が示す注意事項を遵守してもらう

⑤ イベント中に誰とどのくらいの距離で何分くらい話したか、その時にマスクを着用していたかなど、他人との接触状況を記憶しておく。（感染者発生発覚の際の濃厚接触者特定に役立ちます）

※健康チェックリストには以下の事項を記載してもらってください。（雛形有り）

① 氏名、生年月日、住所、連絡先（電話番号、Emailアドレス）

※個人情報の取扱いに十分注意する

② 競技会または試合開催2週間前から当日までの体温

③ 競技会または試合前2週間における以下の事項の有無

- ・ 平熱を超える発熱
- ・ 咳（せき）、のどの痛みなどの風邪症状
- ・ だるさ（倦怠感）、息苦しさ（呼吸困難）
- ・ 臭覚や味覚の異常
- ・ 体が重く感じる、疲れやすい等
- ・ 新型コロナウイルス感染症陽性とされた者との濃厚接触の有無
- ・ 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合
- ・ 過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間が必要とされている国、地域への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合

(2) 監督会議／代表者会議

3つの密を避けるため、監督会議／代表者会議は原則として事前にオンラインで開催することが望ましいが、困難な場合は、参加人数制限、会場の広さ等の配慮を行って実施してください。参加チームへの連絡事項・注意事項等をメールで展開する、当日に紙で配布するなど、大勢の人数が一堂に会さないよう工夫して下さい。

2. 競技会会場における感染防止対策

各種別委員会・連盟は、以下の点に留意して会場の設営、競技会運営を行ってください。

※事前に施設の担当者で打合せを行ってください。

(1) 諸室

運営諸室において、以下の対応を行ってください。

- ・ 各部屋にアルコール消毒液を設置する。＊1
- ・ 全てのドア及び窓を開け、3つの密が発生する環境を阻止し、ドアノブを介した接触感染を防ぐ。
- ・ ドリンクを冷やすためのドブ漬けは使用しない。
- ・ 座席を設置する際に前後左右1.5～2m間隔をあげ、お互いが正面に座らないよう配慮する。
- ・ 喫煙所は設けない。

(2) 手洗い場所

関係者、参加チームの選手・スタッフ、マッチオフィシャルが競技会の際に手洗いをこまめに行えるよう、以下の対応を行ってください。

- ・ 手洗い場にはポンプ型の液体または泡石鹸を用意する。＊1
- ・ 「手洗いは30秒以上」等の掲示をする。
- ・ 手洗い後に手を拭くためのペーパータオル（使い捨て）を用意する。（布タオルや手指を乾燥させる設備については使用しないようにする。）＊1
- ・ アルコール消毒液を設置する。＊1

(3) トイレ

トイレについても感染リスクが比較的高いと考えられることから、主管FAは、以下の対応を行ってください。

- ・ 便器の蓋を閉めて汚物を流すよう表示する。
- ・ 手洗い場にはポンプ式液体または泡石鹸を用意する。
- ・ 「手洗いは30秒以上」等の掲示をする。
- ・ 手洗い後に手を拭くためのペーパータオル（使い捨て）を用意する。（布タオルや手指を乾燥させる設備については使用しないようにする。）＊1
- ・ アルコール消毒液を設置する。＊1

(4) ロッカールーム

ロッカールームは3つの密が揃うため、感染リスクが比較的高いと考えられます。各種別委員会・連盟は、ロッカールームについて、以下の準備を行ってください。

- ・ 広さにはゆとりを持たせ、選手同士が密になることを避ける。
- ・ ゆとりを持たせることが難しい場合は、一度に入室する参加者の数を制限する、別室を用意する、または外部にテントを設置する措置を講じる。
- ・ 室内又はスペース内で複数の参加者が触れると考えられる場所（ドアノブ、ロッカーの取手、テーブル、椅子、マッサージベッド等）については消毒する。
- ・ 一日に同会場で複数試合を行う場合は、試合終了毎に消毒する。
- ・ 換気扇を常に回す、2つ以上のドア、窓を開けっ放しにして常時換気を行う。

チームの注意事項

- ・ 選手及びスタッフはマスクを着用し、会話を最小限に留める。
- ・ 選手及びスタッフはロッカールームの滞在時間を短くするため着替えに限定する。
- ・ 選手及びスタッフはシャワーを交代で使用し、密集を避ける。

(5) 審判控室

各種別委員会・連盟は、審判控室について、以下の準備を行ってください。

- ・ 広さにはゆとりを持たせ、審判員同士が密になることを避ける。
- ・ ゆとりを持たせることが難しい場合は、別室を用意する、または外部にテントを設置する措置を講じる。
- ・ 室内又はスペース内で複数の参加者が触れると考えられる場所（ドアノブ、ロッカーの取手、テーブル、椅子等）については消毒する。
- ・ 換気扇を常に回す、2つ以上のドア、窓を開けっ放しにして常時換気を行う。

審判員の注意事項

- ・ 審判員はマスクを着用し、会話を最小限に留める。
- ・ 審判員は審判控室の滞在時間を短くするため着替えに限定する。
- ・ 審判員はシャワーを交代で使用し、密集を避ける。
- ・ 審判員同士のミーティングは会場で3密とならないスペース等を探して実施する。

(6) ベンチ

ベンチで間隔を空けて座れるよう、テント等で追加ベンチを設置してください。尚、暑熱対策上、屋根なしで椅子を並べるのは原則不可とします。感染対策と共に、暑熱対策も適切に実施すること。一日に同会場で複数試合を行う場合は、試合終了毎にベンチの消毒を行ってください。

(7) 来場者対応

観客を入れる、または限定的に入れる判断は、開催自治体の方針に従ってください。観客を入れるためには、運営エリアだけでなく入退場ゲート、観客席、コンコースにおいても感染防止対策が必要となります。以下の項目の実行が難しいと判断された場合は、同規模の集会・イベントの開催が許可された状況下にあっても、無観客試合を検討頂くようお願いいたします。

事前通達

競技会に観戦者を入れる場合には、観戦エリアにおいて3つの密を避ける対応が求められます。以下の留意事項について、事前にホームページ等で周知を徹底してください。

- ・ 体調の悪い人は来場を控える
- ・ 来場する際はマスクを着用する
- ・ 大声での声援や大旗を使つての応援は行わない
- ・ 場内ではそれぞれ2mの間隔を保ち、ハイタッチ、抱擁、肩を組むなどの行為は控える

試合当日

競技会に観戦者を入れる場合には、以下の点に留意してください。

- ・ 試合会場各所（入退場ゲート、トイレ等）にアルコール消毒液を設置する。＊1
- ・ 入場時にサーモグラフィーまたは体温計による来場者の体温チェックが推奨される。体温チェックが難しい場合は、体調の悪い人への観戦自粛を促すアナウンスを徹底する。
- ・ 飲食売店の運営は、安全対策に十分配慮した上で判断する。運営する場合は、ドブ漬けを使用したドリンクの販売は行わない。また、アルコール類の販売も当面は行わない。
- ・ 喫煙所は設けない。
- ・ 場内アナウンス、電光掲示板等で、上記「事前通達」事項のアナウンスを随時行い、守らない方には直接注意する。
- ・ 注意しても改善されない場合は退場してもらうなどの措置を講じる。

(8) マッチコーディネーションミーティング（MCM）におけるチームへの伝達事項

各種別委員会・連盟の感染対策責任者はMCMに出席し、運営に関わる注意事項、チームへの依頼事項として以下の項目を参加チームに伝えてください。

[主な感染対策確認内容]

- ・ 試合前、試合後に相手チーム、審判団との握手は実施しない・両チームベンチへの挨拶を実施しない
- ・ エスコートキッズは実施しない・円陣はしない
- ・ 倒れた選手に手を貸さない・得点時にハイタッチ、抱擁を行わない
- ・ 口に含んだ水を吐かない・ボトルを共用しない
- ・ 水・氷を溜めたクーラーボックスを共用しない・タオルを共用しない
- ・ ピッチ上でチームメイト、審判員と会話する際にも互いの距離についてしっかりと配慮する
- ・ ピッチ内でも咳エチケットを守り、つばを吐く、手鼻をかむなどの行為を行わない
- ・ ベンチではマスクを着用し、会話を控える

試合開始前のウォーミングアップ

- ① 室内練習場等でのウォーミングアップ
 - ・ 選手、チーム役員は、マスクをしなくてよい
 - ・ 換気に留意する

- ② ピッチ上でのウォーミングアップ
 - ・ 選手、チーム役員は、マスクをしなくてよい
 - ・ 審判員はマスクをしなくてよい
- ③ スタンドへのボールやプレゼントの投げ込むような行為をすることはできない

試合開始前の、審判団による選手チェック及び用具チェック

- ① 各チームの更衣室前（通路が狭い場合は屋外で実施）で副審が実施。
- ② 副審はマスクを着用
選手及び審判団のピッチ入場～キックオフ
- ③ 入場前の混雑を防ぐため、両チーム及び審判団はそれぞれに入場する ② リスペクト旗の入場及びエスコートキッズは行わない
- ④ マスコットの入場、子供を抱っこしての入場も不可
- ⑤ 握手セレモニー、ペナント交換、選手や審判員の表彰、来賓などによるキックオフセレモニー等は行わない
- ⑥ チームの集合写真撮影は認められる、但し、社会的距離（できるだけ2m、最低1m）を保つこと
- ⑦ コイントスは主審及び両チームのキャプテンにより実施する、但し、社会的距離（できるだけ2m、最低1m）を保つこと
- ⑧ ピッチ上で円陣を組むことは行わない

チームベンチ

- ① 1席空けて座る
- ② 入り切らない場合は、ベンチを増やして対応する
または、主審および両チームで事前に合意した場所で待機を設定する
- ③ 一日複数の試合が行われる場合は、入れ替え時に消毒液でベンチシートなどを拭き取る
- ④ ベンチの選手及びチーム役員は、マスクを着用する
但し、テクニカルエリアで指示を送る際は、マスクを外してよい
競技中については、プレー及びアップ時以外はマスク着用とする
- ⑤ 不要な会話・接触は控える
 - ・ 「新しい生活様式」における熱中症予防行動のポイント
(厚生労働省2020年5月29日)

- ・ 高温や多湿といった環境下でのマスク着用は、熱中症のリスクが高くなるおそれがあるので、屋外で人と十分な距離（少なくとも2 m以上）が確保できる場合には、マスクを外してよい
- ⑥ ベンチの選手及びチームスタッフはマスクを着用する
 - ・ チーム役員が、テクニカルエリアで指示を送る際は、マスクを外してよい

試合中の飲水

- ① 原則飲水ボトルの共用を避ける
 - ・ たとえ口が直接触れなくても唾液が飛ぶ可能性があり、感染の危険性はある
 - ・ ペットボトルでのピッチレベル設置使用可（但し、スクイズボトルタイプのキャップに交換する）但し、使用したペットボトルは必ず破棄すること
- ② 氷水にスポンジを入れて体を冷やすことは、体を冷やすだけであれば容認される
但し、スポンジで顔を拭うことは行わない
- ③ 選手が口を付けフタをしたボトル等をクーラーボックスに戻すことは、絶対に避ける

飲水タイム

- ① 飲水ボトルの共用を避けることから、十分な水分補給の機会が見込めないため、WBGTの数値に関係なく飲水タイムを設定し、パフォーマンス向上につなげる
- ② 「熱中症対策ガイドライン」に基づき、WBGTの数値が条件に達した場合は、Cooling Break を実施する

ハーフタイム

- ① 選手、チームスタッフ、審判員等の引き上げ動線が混雑しないよう、予め確認する
- ② グラウンドの補修は、通常と同様に実施される
- ③ ボールを消毒する

試合終了時のセレモニー

両チームと審判団がピッチ中央に集まることは行わない

- ① チームとして集まって自宅等で観戦しているファン・サポーターに挨拶する等を行う場合、社会的距離（できるだけ2m、最低1m）を確保すること
 - ・ 握手、ハイタッチ、抱擁は行わない
 - ・ 選手、チームスタッフ、審判員は、各自で更衣室に戻る
- ② その他注意事項
 - ・ 試合後のスタンド内に選手・スタッフが上がってのセレモニーは禁止

・ 入場ゲート周辺での見送りセレモニーについても禁止

※上述の伝達事項は、参加チームが競技会参加にあたり留意すべき事項でもあります。競技会参加にあたって、各種別委員会・連盟感染対策責任者から各チームの感染対策責任者に事前に伝達するようにしましょう。

(9)メディア対応における注意事項

事前準備

競技会・試合の取材申請を事前に締め切ることにより、3つの密を避けるための取材者の人数調整が可能となり、更には取材者に対して事前に感染防止対策を周知することができます。

- ・ 試合会場の設備に合わせて、3つの密にならないように取材者の人数を事前に調整してください。
- ・ 試合を取材するメディアに対しても、次に記載されている内容を遵守するように事前に伝えてください。

(ア) 以下の事項に該当する場合は自主的に来場を見合わせること

- ・ 体調が良くない場合（例：発熱・咳・咽頭痛などの症状がある場合）
- ・ 同居家族や身近な人に感染が疑われる方がいる
- ・ 過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合

(イ) マスクを常時着用する

(ウ) 健康管理表を作成し入場時に提出する

(エ) 競技会に参加する上で各種別委員会・連盟が示す注意事項を遵守してもらう

- ・ 取材申請時に健康管理表を送付し、当日受付で提出してもらってください。

試合会場のメディア設営

競技者とメディアの不要な接触を避けるためのメディア動線を作成し、以下に留意して設営を行ってください。

- ・ 記者室や記者席、記者会見場では、各記者が前後左右1.5m～2m間隔で座ることができるよう、座席を配置する。
- ・ 記者室、記者会見場の入口にアルコール消毒液を設置し、全てのドア及び窓を開けっ放しにする。＊1
- ・ 3つの密を回避できる部屋がない場合、記者室を設置しないことも検討する。この場合、取材するメディアに記者室がないことを事前に周知する
- ・ 記者会見場の大きさに応じて記者の数を限定する。競技会会場に会見場がない、または3密を回避できない場合、感染リスクを回避できるスペースにミックスゾーンを設

置いてメディア対応する。

- ・ ミックスゾーンにおいても換気を十分行い、取材中、選手取材者が2mの距離を保てるように、プラ柵等を設置する。

当日のメディア運営

健康チェックリストを提出してもらうとともに、体温計を準備して、メディア受付時に検温することが推奨されます。メディア受付時に以下の注意事項をお伝えください。

- ・ 常時マスクを着用し、不必要な会話を控える。
- ・ 代表質問を行うなど、取材者の人数も必要最小限となるように調整する。
- ・ 選手との距離は2m以上取り、取材者同士も、最低1m間隔を保つ。
- ・ できるだけ短い時間で取材を終える。

(10) ゴミの廃棄方法

ゴミを収集する際は、マスクや手袋を必ず着用してください。ゴミはビニール袋に入れて密閉して縛り、廃棄してください。マスクや手袋を脱いだ後は、必ず石鹸と流水で手を洗い、手指消毒してください。

これら(1)~(10)を実施しても感染リスクをゼロにすることはできません。各種別委員会・連盟、参加チームは、その点を理解した上で、競技会に参加してください。

また、各諸室の窓、ドアの開放、運営関係者及びチーム関係者全員にマスク着用を義務化することにより、熱中症を発症するリスクが高まります。マスク着用のタイミングにも注意の上、こまめな水分補給を心掛けましょう。

3. 競技会期間中に於いて、競技会に係る関係者、参加チームの選手、スタッフに感染者が発生した場合は、必ず、競技会責任者及びNFA感染対策責任者に報告し、以後の競技会開催について協議し決定する。

4. 事後対応

万が一感染が発生した場合に備え、個人情報の取り扱いに十分注意しながら、競技会当日に参加選手・スタッフ、メディア、運営関係者には、**健康チェックシート**を、保存期間（少なくとも1ヶ月）を明記した上で保存しておくように通知徹底してください。

競技会終了後14日以内に、各チームの感染対策責任者に連絡を取り、具合の悪い選手・スタッフがいないか確認してください。

万が一運営スタッフの中から競技会終了後14日以内に新型コロナウイルス感染症の感染が判明した場合は、保健所の指示に従うとともに、奈良県FAにその旨ご報告ください。また、チームから競技会終了後14日以内に感染者発生のご報告があった場合にも、同様にその旨、奈良県FAにご報告ください。

(備考) 本章における*1については、可能な限り施設等との調整により、基準通り準備する事が望ましいが、準備が困難な場合には、その旨を参加チーム、審判員、運営役員等に事前周知し、各自で準備対策を講じてもらう方法でも構わない。

追加事項

感染対策ルール

競技会および試合運営に関わる方々は、以下の事項を遵守する。

-1. 感染対策ルール

① 自主的に参加を見合わせる（以下の事項に該当する場合）

・ 体調が良くない場合(例：発熱、咳、喉の痛み、だるさ、味覚嗅覚の異常などの症状がある場合)

・ 同居家族や身近な人に感染が疑われる方がいる場合

・ 過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合

② マスクを着用する

③ 咳エチケットに十分配慮する

④ 手洗い、手指消毒をこまめに行う

⑤ 社会的距離（できるだけ2m、最低1m）を確保する

⑥ 3密（密閉、密集、密接）を避ける

⑦ 握手、抱擁などは行わない

⑧ フィールド上での唾・痰吐き、うがい等は絶対にしない

⑨ タオル、飲料ボトルなどの共用はしない

⑩ 健康チェックシートの提出

⑪ その他JFA、主管FAが示す注意事項を遵守する

-2. 参加対象者の特定（健康チェックシート提出予定者の特定）

参加チームは、3週間前に競技会または試合に参加、帯同する選手、チーム役員等の対象者を特定し、用紙の配布等により健康チェックシートへの記入準備を開始する。

JFA、主管FAは、必要に応じて参加チームより対象者リストの提出を求める。

-3. 健康チェックシート

以下事項を記載した健康チェックシートを回収し、健康状態について問題のないことを確認する。

① 氏名、生年月日、住所、連絡先（電話番号、Eメールアドレス）

・ 個人情報の取扱いに十分注意する

② 競技会または試合開催2週間前から当日までの体温

③ 競技会または試合前2週間における以下の事項の有無

- ・ 平熱を超える発熱
- ・ 咳（せき）、のどの痛みなどの風邪症状
- ・ だるさ（倦怠感）、息苦しさ（呼吸困難）
- ・ 臭覚や味覚の異常
- ・ 体が重く感じる、疲れやすい等
- ・ 新型コロナウイルス感染症陽性とされた者との濃厚接触の有無
- ・ 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合
- ・ 過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間が必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合

-4. 乳幼児のマスク着用の考え方

日本小児科学会の見解（乳幼児のマスク着用の考え方）

- ① 乳幼児のマスク着用には危険があります。特に2歳未満の子どもでは、気をつけましょう
- ② 乳幼児は、自ら息苦しさや体調不良を訴えることが難しく、自分でマスクを外すことも困難です
- ③ また、正しくマスクを着用することが難しいため、感染の広がりを予防する効果はあまり期待できません
- ④ むしろ、次のようなマスクによる危険性が考えられます
 - ・ 呼吸が苦しくなり、窒息の危険がある
 - ・ 嘔吐した場合にも、窒息する可能性がある
 - ・ 熱がこもり、熱中症のリスクが高まる
 - ・ 顔色、呼吸の状態など体調異変の発見が遅れる

特に、2歳未満の子どもではこのような危険性が高まると考えます。子どもがマスクを着用する場合は、いかなる年齢であっても、保護者や周りの大人が注意することが必要です。感染の広がりの予防はマスク着用だけではありませんので、保護者とともに集団との3密を避け、人との社会的距離を保つことも大切なことです。

ー5. チームの移動

参加チームは、以下の点に留意して対応してください。

また、JFA、主管FAは、以下の点に留意して対応します。

飛行機、新幹線

① 考え方

・ チームは常に健康状態をモニタリングしている集団であり、チーム単位での移動により感染対策を万全にする

② 航空機

- ・ 航空機内は、空気が約3分で、すべて入れ替わる換気のよい空間です
- ・ 当面、機内での距離をとった配席運用になるとされています

③ 新幹線

- ・ 新幹線の車内も、6～8分ですべての空気が入れ替わる

バスによる長距離移動

① バス会社への事前の依頼事項

- ・ 事前に車内を消毒する
- ・ 運転手の体調管理し、マスク、手袋を着用する

② バス車内での社会的距離

- ・ バス内は密をさけるよう人数を極力減らし、着席する席の間隔を空ける（目安：定員50%まで）
- ・ 長時間（2時間以上等）移動の場合、複数台のバスにより密にならない状況を作るなどを検討する

③ その他の注意事項

- ・ バス内ではマスクを着用する
- ・ 1時間につき3回の換気を推奨として、窓を開けて換気する
- ・ サービスエリア等での休憩時もマスクを着用し、感染予防に務める

近距離の移動

① チームの移動は、可能な限り公共交通機関の利用を避け、バス、乗用車等を利用する

尚、会場の駐車場利用については主管FAの指示に従うこと

② 移動に際して、以下の点に留意する

- ・ マスクを着用する

- ・ 長時間（2時間以上等）移動の場合、複数台に分乗して選手間の社会的距離（できるだけ2m、最低1m）の確保を検討する

- ・ 1時間につき3回の換気を推奨として、窓を開けて換気する

チームの宿泊

参加チームは、感染リスクを回避するため以下の点に留意して対応します。

また、JFA、主管FAは、必要に応じて以下の点に留意して対応します。

-1. 接触による感染リスクからの回避

宿泊施設の従業員や利用客との接触を減らし、感染リスクを減らす工夫をする

- ① 施設単位またはフロア単位での貸し切りを検討する
- ② 動線（共用の廊下やロビー等）、エレベーターについては、時間を指定することも検討する
- ③ 食事会場をチーム専用とすることができるか検討する
- ④ チームが使用する部屋は事前に消毒、換気する（宿泊施設への依頼）
- ⑤ チームの不在時に清掃する、または、清掃しないことも選択肢となる

手指消毒液の設置

チームが訪れる各所に手指消毒液を設置する

（食事会場、マッサージルーム、ミーティングルーム、廊下（フロア等を専有する場合）、その他）

チームの行動規範

- ① 自室以外ではマスクを着用する
- ② エレベーターのスイッチや階段の手すりに、素手で触れないようにする
- ③ ホテルのサウナ、フィットネスルーム、バー等に立ち入らない

部屋割り

- ① 可能な限り絞った人数での宿泊とし、密を避けて設定する（対応できない場合は、選手同士の体調管理を徹底する）
- ② 部屋の換気を良くする（温度21度、湿度50～60%が推奨される）

マッサージルーム

- ① 室内を混雑させないよう留意し、換気を良くする
- ② 順番が来るまで室内に立ち入らない
- ③ マスク、手袋等を用いて、感染を予防する

- ③ トレーナーは、マスク・手袋・手指消毒など標準予防対策をとった上で対応する
- ④ 手袋の手配が難しい場合等、1行為1手洗い（アルコールジェルでの刷り込み含む）をしっかりと行う

食 事

- ① 選手の席は、社会的距離（できるだけ2m、最低1m）を確保し、向かい合わせの配席はしない
- ② 十分に広い部屋がない場合、グループ分けして食事時間をずらす、食事は一人ずつ取り分けた状態で用意する
- ③ 食事中、宿泊施設の方は部屋にいないようにし、片付けはチームが退出した後に行う。ビュッフェ形式は、取り分けにより感染リスクが想定されることから見合わせる

ミーティング

- ① 試合前を除き可能な限り、WEB会議システムの利用を検討する
- ② 対面にて実施する場合、部屋の換気に留意する
- ③ 監督、コーチ、選手が、社会的距離（できるだけ2m、最低1m）を確保して着席する

競技会開催可否の判断基準

試合エントリー予定選手数

参加チームが、キックオフ時点で大会エントリー選手の中で確保できる選手人数を『試合エントリー予定選手数』として設定し、この条件を満たしている場合は、試合を実施する。（自動的に実施）

尚、この条件に満たない場合であっても、競技規則上の最低人数を確保されている状況にあって、当該チームが同意すれば試合を実施する。（協議のうえ実施）

尚、最終的な試合実施については、大会実施委員長が可否判断する。

競技会エントリー選手の中から、以下条件に適合する選手を除いて確保できる選手人数

- ① PCR検査で陽性反応があった
- ② 濃厚接触者と指定された
- ③ 自主的に参加を見合わせる対象者

●体調が良くない場合（例：発熱・咳・咽頭痛などの症状がある場合）

●同居家族や身近な人に感染が疑われる方がいる

●過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合

種目	試合エントリー予定数	当該チーム意向調査	中止
サッカー11人制	11人(G K I名含む)	13～7人	6人
サッカー8人制	8人(G K I名含む)	7～6人	5人
フットサル	5人(G K I名含む)	4～3人	2人

理由

競技会は、過去実績では交代要員1～2名程度というチームもあり、試合のできる最低条件として競技者数に揃えることが適当と考えたため。

期待される効果

当該チームは、新型コロナウイルスの影響により不可抗力によりチーム編成がままならない状況の中、最低必要な人数の選手を確保できる状況において試合ができる。

（当該チームが不利な状況での試合開催を避ける）